

「ヒト死後脳を用いた神経変性疾患の発症予測因子の探索」 に関する情報公開

東京都健康長寿医療センターでは、当センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に下記の共同研究を実施します。病理解剖の際に医科学研究への協力にご承諾をいただいておりますが、改めて本研究へのご協力を承りますようお願いいたします。

なお、本研究への協力を望まれない場合、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

●研究の名称

ヒト死後脳を用いた神経変性疾患の発症予測因子の探索

●研究の対象

2001年7月以降に東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断によりパーキンソン病あるいは多系統萎縮症と診断された方および顕著な疾患なし（ α シヌクレイン病理が見られない）と診断された方。

●研究の期間

倫理委員会承認後から2025年3月まで

●研究の目的と概要

パーキンソン病は、主に中高年以降に発症する神経変性疾患の1つで、様々な運動機能が障害されます。その原因は未だ分かっていませんが、神経細胞内に α シヌクレインという蛋白が異常に蓄積する（レヴィ病理と呼びます）ことが発症の原因と深く関係すると考えられています。パーキンソン病では運動症状の発症前に嗅覚障害を生じる方が多くいます。また、嗅覚を司る中枢である嗅球は早くから α シヌクレインが溜まる場所として知られています。そこで、本研究では、嗅球病理と嗅覚障害およびパーキンソン病発症との関係を知るために、パーキンソン病症例の嗅球組織を用いて、細胞内における遺伝子発現を網羅的に調査し、 α シヌクレインの異常蓄積ならびにパーキンソン病の発症に直接関連する因子を同定いたします。また、同じく α シヌクレインが中枢神経に蓄積する多系統萎縮症に関しても同様の検索を行い、比較検討を行います。

●研究の方法

大阪大学医学部附属病院および東京都健康長寿医療センターにおいて剖検され、神経病理学的な最終診断により、パーキンソン病あるいは多系統萎縮症と診断された症例、あるいはレヴィ小体型認知症と診断された方、脳内に α シヌクレインの蓄積が見られな

かった症例を選別します。試料は剖検施設において匿名化した後、大阪大学神経内科学に送付されます。試料からの RNA 抽出を行います。大阪大学共同研の実験設備を用いて cDNA ライブラリー作製を行い、次世代シーケンサーを用いて RNA シーケンスを実施いたします。シーケンス結果は大阪大学遺伝統計学教室に送付され、同教室で遺伝子発現情報の解析を実施します。遺伝子発現解析は、外部からのアクセスができない大阪大学大学院医学系研究科のゲノム解析サーバーにて実施いたします。解析結果は大阪大学神経内科に送付され、病理情報と遺伝子発現情報の統合解析を行います。

●研究に使用する試料・情報

パーキンソン病と診断された症例、多系統萎縮症と診断された症例、レヴィ小体型認知症と診断された方、 α シヌクレイン病理を有さない（他の神経疾患と診断された）症例を最大で各 20 例程度選別する予定。

●研究組織

東京都健康長寿医療センター	神経病理／高齢者ブレインバンク	齊藤祐子 村山繁雄
大阪大学大学院医学系研究科	神経内科学	望月秀樹 別宮豪一

●お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。
研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

●問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号
東京都健康長寿医療センター
高齢者ブレインバンク/神経病理 齊藤祐子（研究責任者）
電話 03-3964-3241 内線 4419（平日 9:00~17:00）